

2020年9月7日



月曜朝のお勤め 「御文」拝読

光といのち

第126号

—秋彼岸—

2020年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌

悪重く
あくおも

障り多きものよ
さわり

宗 正元
そう しょうげん

昨年九月九日の台風15号に始まり今年には春先より新型コロナウイルス感染症による災禍。この一年間ずっと異常事態が続いている感じがします。

皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。

真宗大谷派の年度は、七月一日に始まり六月三十日で終わりますので、例年は九月の寺報には新年度一年間の行事予定を掲載し皆さまの参加の便を図っていました。しかし今年には文字どおり予定です。しかし新型コロナウイルス感染症防止に関する南房総市のお知らせや宗門の指針を遵守し、できるだけ多く開催する所存です。

なお参加者される方は、念珠・門徒章とマスクが必携です。

報恩講

11月20日(金) 速夜法要
21日(土) 晨朝法要
日中法要

定例法要

秋彼岸会 9月22日(火)
修正会 1月2日(土)
春彼岸会 3月20日(土)
孟蘭盆会 8月10日(火)

時間 10時～11時30分
法話 住職か副住職

※昔からこの日に、護持金をお預かりしています。法要にお参りし法話を聴聞してください。
参加費は、不要です。

月曜朝のお勤め

毎週月曜日 6時15分～45分
正信偈などを皆さんと一緒に
お勤めします。

「御文」を拝読した後に住職の法話があります。

参加費は不要。継続して参加される方には、『真宗大谷派勤行集(青本)』『御文稽古本』をプレゼントします。

※世話人総会・仏具磨き・花まつりは、検討中です。

勝善寺聞法会

第1回 12月13日(日)
第2回 6月13日(日)
時間 14時～16時
参加費 500円

同朋の会

第1回 10月11日(日)
第2回 2月14日(日)
第3回 5月9日(日)
第4回 7月18日(日)

講師 住職
時間 14時～16時
参加費 500円

地区聞法会

八日講十日講 9時～11時
1月8日(水) 6月7日(日)
中佐久間講
5月21日(木) 13時半～15時半
※実施の有無等は、当該地区の方々と相談します。

千葉組親鸞教室

9月30日(水) 12月4日(金)
1月14日(木) 勝善寺
時間 13時～16時
参加費 1000円

千葉組婦人研修会

開催日等未定

表紙題字下の「悪重く障多きものよ」

は、二十年ほど前に本山で開催された
任職を対象とした研修会で、宗 正元
先生がお話しされた講題です。

当時私は、教職にありそれに参加する
縁がありませんでしたが、『真宗』に
掲載されたその際の講述文を読み、漠
然としていた自分の抱える問題に光が
当てられたような感じを受けました。
そこに引用された『教 行 信 証』の
言葉は難しく内容も充分には理解でき
ませんでしたが、この先生のお話しを
もつと聴聞したいと思つたことを覚え
ています。

その後、月に一回ほど雲集学舎に通
うこともありましたが、親鸞聖人が法
然上人に求めたひたむきさはありませ
んでした。

宗 正元 先生は、本年五月二十日
に九十三歳で西歸されました。

今は、先生に呼びかけながらも中途
半端な姿勢でしか聴聞しなかつた非礼
を謝すばかりです。

しかし振り返ると、私は先生に「悪重
く障多きものよ」と呼び続けられ、今
に至つたようでもあります。

二〇〇一年度 第一回 真宗本廟育成員研修会 悪重き障り多きものよ (上)

— 宗祖親鸞聖人がなわれた課題 —

宗 正元 講述

(抜粋)

悪重く障多きもの

「心昏く識寡なく」という言葉で言い
表しているのは、突き詰めて言うとは、根本
問題がはつきりしないということです。い
ろんなことを考えて、いろんなことを問題
にしているけれども、己の人生そのものに
関わってくる根本問題、生活そのものに
関わってくる根本問題、それがなかなかはつ
きりしない。そういうことが「心昏く識
寡なく」という言葉で言い表わされてい
ると言つていいでしょう。「悪重く障多き
もの」。何がどうなつても癒されない、そ
ういう病を抱えている、そういう悩みを抱
えているだけに、「癒しの時代」といわれ
てね、どうしたら癒されるかということば
かりが取り上げられるけれども、何をもち
ても癒されない。親鸞聖人は「難治」、治
らないといつておられますね。
それから「難化」。何がどうなつても変
わらない。修行したら少しは変革されるか
と言え、少しも変わらない。幸せになれ

ば少しは人間が変わるかと思つても全然変
わらない。

宗祖の呼びかけ

そういう人に親鸞聖人は呼びかけてい
るわけです。「専らこの行に奉え、ただ
この信を崇めよ」と。どんな人に呼びかけ
ておられるのかと言え、**「穢を捨て浄を
欣い、行に迷い信に惑い、心昏く識寡
なく、悪重く障多きもの」**、そういう人に
呼びかけ、そういう生き方しかできないも
のが大きな転機を持つていると。

「機」です。得難い転機。

それはどんな転機かと言うと、「如来の
発遣を仰ぎ、必ず最勝の直道に帰する」
と、こういう言葉で親鸞聖人が言い表し
ておられます。

穢を捨て浄を欣い、行に迷い信に
惑い、心昏く識寡なく、悪重く障
多きもの、特に如来の発遣を仰ぎ、
必ず最勝の直道に帰して、専らこ
の行に奉え、ただこの信を崇めよ。

(「総序」真宗聖典一四九頁)

「特に」という言葉をわざわざ使つてお
られます。つまり、如来の発遣を仰ぎ、
必ず最勝の直道に帰する転機だといふこ

とを言い表しておられるのです。のんべんだらりと、如来の発遣を仰いだり、最勝の直道に帰すると、単にそういうことではない。如来の発遣を仰ぐというようなことは、どういうものの中に開かれてくる転機なのか。「悪重く障多きもの」という言葉に収めて言えば、なんとかしたいと思っても、どうすることもできないようなそういう身。幸せになっても本当に喜ばない。多少、「ああよかった」というものがあるにしても、そこに新しい生きる喜びを見い出すということまではできない。ただ、楽になつたというだけであつてね。

親鸞聖人は「総序」の最後に、「聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなり」とと、このように述べておられますでしょう。こういう慶びが出てこないのです。そういう「悪重く障多きもの」、それはどうにもならない「難化の三機」(「信巻」二七一頁)といわれているように。それが大事な転機、もつと積極的に言えば、それは如来の発遣を仰ぐチャンスだということです。

この場合の「如来」というのは、釈尊に代表されますが、ただ釈尊だけじゃない。もちろん釈尊以前もありますが、釈迦・諸仏、よき人びとです。『歎異抄』で

親鸞聖人が言い表しておられる「よきひとのおおせをかぶる」(真宗聖典六二七頁)転機です。それは発遣を受けるチャンスです。それは私どもをどこに発遣するのか。『歎異抄』では「念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」、念仏申せ、念仏して弥陀にたすけられよと。こういう発遣の声に出遇う、そういうかけがえのないチャンス、大きな方向転換する転機として「特に」といわれているわけでしょう。

その後、「最勝の直道に帰する」とあります。つまり、「如来の発遣を仰ぎ、最勝の直道に帰する」という転機が開かれる。また、そういう転機を抱えているのが、「悪重く障多きもの」という意味ですね。それは「悪重く障多きもの」の出口です。「悪重く障多きもの」にはどこにも出る道はないのかと言え、そこに転機がある。「如来の発遣」は、永い歴史を持っているのです。親鸞聖人は「正信偈」に、それこそ「如来の発遣」として、「唯可信斯高僧説(ただこの高僧の説を信ずべし)」と、つまり、「念仏して弥陀にたすけられよ」と、私どもを勧め、呼びかけてくださっていると、七高僧のことを取り上げておられますが、この如来の発遣を仰ぐ。「最勝の直道」。「直道」とい

うのは、それこそ涅槃に直ちに結びつく道です。何かいろいろ修行して涅槃をさとするのではなく、涅槃という境地―涅槃ということは境地という言葉では言い表しにくいですね。むしろ、一切を一味平等に受けとって生きるいのちと呼応していく生き方と言ったほうがいいかもしれません。

「発遣」というのは声です。「念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」と呼びかける声です。要するに一、声です。その一、声は聞けるかどうか。だから、その南無阿弥陀仏の声を「一、声」と。

いま弥勒付嘱の一念はすなわちこれ一、声なり、一、声すなわちこれ一念なり

(「行巻」真宗聖典一九二頁)

発遣という言葉で呼びかける声をあらわしているわけです。「念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」と。本願に帰れど。「最勝の直道」というのは、涅槃に直ちに結びつく道。つまり、「一味平等」にすべてを受けとって生きるいのちの世界と直ちに結びつく道です。

『真宗』2001年十二月号より)

新型コロナウイルスと共に生きざるをえません

催物開催の上限人数の目安について 屋内：上限人数は5,000人かつ定員の半分以下

千葉県「新型インフルエンザ等対策特別措置法」（令和2年8月25日）

2020年4月17日

法要(葬儀・法事等)における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けての宗派指針

<真宗大谷派>

このたび、法要（葬儀・法事等）における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けての宗派指針を取り纏めましたので、感染拡大防止に向けてご門徒や有縁の皆さまと十分にご相談いただき、下記のとおり対応くださるようお願いいたします。

記

- 1 法要前には必ず、手洗い・手指の消毒を厳守してください。また、参列者にも同様に手洗い・手指消毒を徹底いただくよう依頼ください。
- 2 常に咳エチケットを心がけるとともに、勤行・読経の際にもマスクを着用ください。また、参列者にも同様にマスク着用を徹底くださるよう依頼ください。
- 3 感染リスクを減らすため、3つの「密」を避けてください。
 - ①「密閉空間」避けるために、できるだけ換気をしてください。
 - ②「密集場所」を避けるために、参列者にできるだけ間隔をあけて着席するよう促してください。また、お焼香も間隔をあけるよう配慮してください。
 - ③「密接場面」を避けるために、間近での会話や対面による会話を可能な限り、避けてください。※法話は一定の距離（2メートル以上）をあけてください。
- 4 法要終了後のお斎（会食）は控えてください。
- 5 37.5℃以上の発熱や体調の優れない方には、法要への参列を控えていただくよう依頼ください。
- 6 新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の通夜・葬儀等を執り行うにあたっては、国の方針（※厚生労働省が示す「新型コロナウイルスに関するQ&A(関連業種の方向け)令和2年4月15日時点版、3.遺体等を取り扱う方へ」等）を踏まえた上で、医療機関や葬祭場とも連携をし、感染防止のための衛生対策に努めてください。
- 7 日常的な自己管理を徹底し、感染症の媒介者とならないように留意ください。
- 8 新型コロナウイルス感染症への対処法を正しく理解し実行することで、差別や風評被害が広がらないように努めてください。

以上

「Zoom」で参加

新型コロナウイルス禍中において、テレワークとかオンライン授業とか、よく耳にするようになりました。

仏教界でも、オンライン聞法会、オンライン法事、YouTubeなどでの法話の配信など、工夫をしています。

当寺では、報恩講日中法要以外は、幸か不幸か、密集密接がありませんし、公共交通機関も密集することはありませんから、従来通りの方法で開催できます。もちろん感染防止対策をすることです。

それよりも中長期的には、高齢化と過疎化が問題です。

このオンラインブームは、薄らぎつつあるご門徒と寺の関係を繋ぎ直すチャンスかも知れない。そう考え、試みに秋彼岸会・親鸞教室を「Zoom」でも参加できるように計画中です。

参加希望する方は、ご自分のパソコンかスマートフォンで「参加します」と9月21日までにメールしてください。

アドレスは寺報題字の枠にあります。